

【LINEノベル】LINE・日テレ・アニプレックスによる新時代の文学賞『第1回令和小説大賞』大賞作品が決定！

2020.03.03 ALL

応募総数4,440作品から選ばれた大賞作品は、遊歩新夢さんの「星になりたかった君と」

大賞作品には、賞金300万円贈呈のほか、書籍化・映像化が決定！

LINE株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：出澤 剛 以下、LINE）、日本テレビ放送網株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：小杉 善信 以下、日テレ）、株式会社アニプレックス（本社：東京都千代田区、代表取締役：岩上敦宏 以下、アニプレックス）は、昨年4月16日より募集受付を開始した、新時代における新たな才能を発掘する文学賞『第1回令和小説大賞』の大賞作品及び受賞作品が決定いたしましたので、お知らせいたします。

■第1回令和小説大賞 受賞作品発表ページ

URL：<https://novel-award.com/contests/1/result.html>



『第1回令和小説大賞』は、LINE・日テレ・アニプレックスの3社が、新たな才能を発掘することを目的としたオールジャンルの文学賞です。応募テーマは無く、純文学・エッセイ・ファンタジー・ミステリー・ノンフィクションなど、ジャンルや表現方法は自由となっており、既存の枠組みにとらわれない新しい時代にふさわしい才能を世の中に発信することを目的に開催いたしました。大賞受賞作品には、「賞金300万円」贈呈のほか、「作品の映像化」や「書籍化」が決定、最終審査員には、株式会社ストレートエッジの三木 一馬氏、日本テレビ放送網株式会社の植野 浩之氏、株式会社アニプレックスの高橋 祐馬氏など、ドラマやアニメ、小説など映像・出版業界の第一線で活躍する方々が揃うなど、メディアミックスした、まさに新しい時代の文学賞です。

2019年4月16日からの作品受付開始以降、応募総数は累計で4,440作品に及び、作品ジャンルも、ミステリー、青春、群像劇、恋愛、SF、ライトノベルなど、バリエーション豊かな応募作品が集まりました。そして、その中から、厳選なる審査の結果、大賞受賞作品は、星になりたいと願う少女のため新天体を搜索する少年の純愛を描いた感動作品、遊歩新夢さんの『星になりたかった君と』に決定いたしました。

また、「賞金10万円」及び「作品の書籍化」を贈呈する選考委員特別賞には、谷山走太さんの『負けるための甲子園』、エフさんの『なぜ銅の剣までしか売らないんですか？』の2作品が受賞しております。

■「第1回令和小説大賞」大賞受賞作品

・作品名：「星になりたかった君と」/ 著者名：遊歩新夢



鷺上秀星は祖父と新星を発見したが、それを第三者に横取りされ、星から離れていた。

ある日、手伝いをした星祭りの会場で、『新星を見たい』という奇妙な少女、琴坂那沙と出会う。少女の明るさが曇っていた秀星の心を次第に解きほぐし、再び新天体の搜索への意欲を呼び覚ます。そして、秀星は過去の横取り事件と向き合っていく事になる…。星になりたかった少女と、その少女を星に名付けた青年の、二人の小さな物語。

・審査員からのコメント

あくまで相対的に、という断りの上での話ですが、『文章力』や『ストーリー構成』、『キャラクターの描写』といった各要素が、他作品に比べ特出するほど高いわけではありませんでした。しかし、本作の全体評価を自分は高くしました。その理由は、今ある作品の背後に続く空間の広さ、つまり伸びしろがあると感じたからです。編集者的に表現すると『改稿したらさらに面白くなりそうな作品』ということになります。もちろん、今の内容がつまらないわけでもありませんし、他よりも劣っているわけでもありません。現段階の作品としても価値があり、さらに『素材』としても優れたものを持っている、ポテンシャルの高い作品だと思いました。具体的には、いわゆる難病少女モノに天体観測を掛け合わせたストーリーをベースとして、より作者の意図を表現すべく演出を強化していけば、さらに本作の魅力が発揮されるはずです。映像としても美しく映えるビジョンが浮かびます。その可能性を自分は評価しました。

日本テレビ放送網株式会社 プロデューサー 植野 浩之

LINEというメディアならでの小説とは何か？多くの人々と共有し、共感出来るものではないか。この作品はその価値に見合った作品だと思いました。また映像ビジネスをやっているプロデューサーとしての見方になってしまいますが、一番映像化した際の絵が見えてきた作品になります。映像化した際の「演出表現の拡がりを感じる作品」でもありますので、これからの展開が楽しみです。

株式会社アニプレックス プロデューサー 高橋 祐馬

何に価値を見出すかは時代と共に変化します。昭和は結果、平成は過程、令和は存在。存在という価値は、つまり誰かに関心を持って、その人を認め、受け入れることで生まれます。本作『星になりたかった君と』は、令和という新時代ならではの“存在承認”という価値観を強く感じた作品で、小説として面白いことと共に、令和を冠する小説大賞として選出した理由の1つがそれになります。“共有”の描写に心を動かされたのも今の時代らしくて好きです。一方、あえてコメントさせて頂くと、小説としてもっと面白くなる余白があり、編集者さんからのアドバイスで更に輝く可能性のある原星の様な小説でもあると感じました。これから、本作という存在が、出版という過程を経て、多くの人を感動させる星になるという結果を願っています。

LINE株式会社 執行役員 森 啓

まずは、第一回令和小説大賞にたくさんのご応募をいただき、ありがとうございます。どの作品も力作ばかり、とても楽しく選考させていただきました。令和という時代に、LINEノベルは始まりました。ユーザーの皆さんの創作が世界とつながるというコンセプトを持っています。

大賞となった作品の世界観でもそういった世界との繋がりが非常にうまく描かれており、今後我々もそういった世界、そういったサービスを作りたいと感じました。なかでも、作品が終盤に差し掛かっていく中での繋がりの高揚感は群を抜いて素晴らしかったです。映像としても観てみたいと強く感じたことが、この作品を大賞に決定づけるポイントとなりました。小説だけでなく、映像としても令和を代表するような作品をこのプロデューサー陣と作っていければと思っています。

■「第1回令和小説大賞」選考委員特別賞 受賞作品

・作品名：「負けるための甲子園」/ 著者名：谷山走太



甲子園の決勝戦。野球部のエースでピッチャーである寛啓人は失投からホームランを打たれて負けてしまう。そうすることで彼は1000万円を手に入れていた。しかしキャッチャーの矢久原純平は、彼の投球がおかしかったことに気づいてしまう。後日、失投について聞いただした純平は、啓人に怪しげな店に連れて行かれる。その店には『なんでも』売っているという。そして啓人の目的は、とある『人間』を買いに来ることだった……。

・作品名：「なぜ銅の剣までしか売らないんですか？」/・著者名：エフ



なぜ最初の街には『銅の剣』までしか売ってないのか。なぜどの街でもアイテムの売値と買値が決まっているのか。

この世界の"不自然"で"不自由"なルールに気づいたマルは、『商人ギルド』の本部を目指し各地を旅する。

倫理を逸脱した商人達を見て、マルは何を思うのか。そして商人ギルド本部で世界の仕組みを知った時にマルは・・・。

今回受賞した3作品を含んだ『第1回令和小説大賞』の応募作品は全て、小説アプリ「LINEノベル」に公開されております。

「LINEノベル」では、本文学賞のほか、「新しい出版のカタチ」や様々なコンテストを通じて、次世代のエンターテインメント作品を発掘し、書く人、読む人、出版社が共存できるプラットフォームを目指してまいります。

■「第1回 令和小説大賞」概要 <https://novel-award.com>

・応募期間 ：2019年4月16日（火）～ 2019年9月30日（月）

- ・応募資格：「LINEノベル」アカウントを所有していれば、だれでも応募可能
(※メールアドレスがあれば、応募可能です)
- ・ジャンル：自ら創作したオリジナル作品（一次創作）であれば、ジャンルは問わず
- ・審査員：日本テレビ放送網株式会社 プロデューサー 植野 浩之
株式会社アニプレックス プロデューサー 高橋 祐馬
株式会社ストレートエッジ 代表取締役 三木一馬
LINE株式会社 執行役員 森 啓

■「LINEノベル」アプリ について

「中村航」「鎌池和馬」など多数の人気小説家による「LINEノベル」だけの書き下ろし作品も掲載すると共に、宮部みゆきの「小暮写真館」（新潮文庫nex）や川原礫の「ソードアート・オンライン」（電撃文庫）など、参画する出版社から提供される既存の人気作品や一般ユーザーによる投稿作品も読むことができる、出版社の枠組みを超えた新しい小説アプリです。さらに、『LINE文庫』『LINE文庫エッジ』といった独自レーベルも展開しており、新たな才能の共有・発掘を行う「あたらしい出版のカタチ」にも取り組んでおり、書き手が活躍できる場も提供しています。

アプリダウンロードURL：https://lin.ee/8kHXPh6/kygb/release （※スマートフォンのみ閲覧可能です）

公式サイト： https://novel.line.me/

LINEノベル 公式Twitter：https://twitter.com/novel_LINE_jp

LINE文庫／LINE文庫エッジ 公式Twitter：https://twitter.com/linebook_jp

LINE公式アカウント： LINE ID：@linenovel

公式ブログ：http://novel-blog.line.me/

-
